

科目名	国際看護活動論			ナンバリング	INE361	授業形態	講義
対象学年	3 年	開講時期	後期後半	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	スーディ神崎和代	担当教員	レンデンマン美智子				

授業の概要	諸外国の看護の基本概念(国際協力、国際看護の目的)、仕組みを、その国の文化的背景と共に理解し、日本の国際的看護活動についての現状と課題を学修する。 また、グローバルな視点から人々の健康課題に対する看護職の役割について理解し、諸外国における看護活動について学修する。特に、世界各国のプライマリーケアへの対策と実践、国際看護組織の活動と成果、看護の国際化に関する現状と課題を学修する。						
到達目標	1. 国際的な看護関連組織の存在とその役割を理解できる。 2. 国際看護活動における日本としての活動と立ち位置の現状を理解できる。 3. 看護の視点からとらえる諸外国の主な健康課題を理解できる。 4. 国際看護活動の実際を理解できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	日々のニュースなどで報道される諸外国の健康課題や現状に対して関心をもって情報収集をする。						
ディプロマポリシーとの関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
		2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
	○	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
		5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 国際的な看護関連組織の存在とその役割を理解できる。 2. 国際看護活動における日本としての活動と立ち位置の現状を理解できる。 3. 看護の視点からとらえる諸外国の主な健康課題を理解できる。 4. 国際看護活動の実際を理解できる。	1. 国際的な看護関連組織の存在とその役割について説明できる。 2. 国際看護活動における日本としての活動と立ち位置の現状を説明できる。 3. 看護の視点からとらえる諸外国の主な健康課題を説明できる。 4. 国際看護活動の実際を説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					90%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○			10%
1/3以上の欠席者は定期試験受験不可						○	

課題、評価のフィードバック	学生からの要望があった場合、迅速に期末試験結果を開示できるようにしておく。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	ガイダンス 国際看護活動の概要	国際看護の定義をし、国際看護の概要を説明できる。	
	第2回	国際看護活動と国際的連携	日本の国際看護活動と国際的連携について説明できる。	
	第3回	日本の国際医療援助活動の動向	日本の国際医療援助活動の歴史と現状を説明できる。	
	第4回	国際医療援助活動の仕組みと実際	諸外国が行っている国際医療援助の仕組みと実際を説明できる。	
	第5回	諸外国における疾病構造と健康課題	諸外国が直面している健康課題と現状を理解する。	
	第6回	国際看護活動のの動向	諸外国が行っている国際看護活動の動向を理解する。	
	第7回	国際看護活動の実際	国際的看護活動の具体例を説明できる。	
	第8回	国際看護とプライマリーケア	国際看護の中のプライマリーケアの実践を理解できる。	
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験	期末試験を実施する。		
授業の進め方		講義と質疑応答を基本とする。 学生の学習状況に応じて授業項目を前後で入れ替える可能性がある。		
授業外学習の指示		配布資料を中心に講義内容の復習をする。 疑問を残したままに次の授業に進まないように、不明点は教員に質問すること。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	講義内容はその都度、配布。
参考書	適宜、紹介。
参考URLなど	
その他	